

西都市における中学校適正規模検討資料（妻中と三納中の比較）

資料 2 - 3

1 生徒数及び学級数の比較 ※特別支援学級は除く

学校名		1年生	2年生	3年生
妻中	生徒数	149【30】	156【39】	164【33】
	学級数	5	4	5
三納中	生徒数	11	17	18
	学級数	1	1	1

※ 【 】内は、1学級の平均人数

『児童・生徒に関する影響』

① 人間関係構築能力等、社会性やコミュニケーション能力に関する影響

項目	妻中		三納中	
人間関係に配慮した学級編成	○	クラス替えができ、生徒や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる。	△	クラス替えができず人間関係に配慮した学級編成ができない。新たな人間関係を構築する力を身につけさせることに課題がある。
クラス同士が切磋琢磨する教育活動	○	クラス同士で切磋琢磨する教育活動が可能である。	△	単学級のため、同学年によるクラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
縦割りによる他学年との関わり	△	集団生活において、同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある。	○	集団生活において、異学年の交流の機会が設定しやすい。

② 学習形態等、学ぶ環境に関する影響

項目	妻中		三納中	
習熟度別指導等、学級の枠を超えた多様な指導形態	○	加配による人的配置があるため、学級の枠を超えた習熟度別指導等が可能である。	△	小中一貫校の強みを生かして、小学校の先生によるT・Tは実施しているが、学級の枠を超えた多様な指導形態は難しい。
グループ学習を行うときの制約	○	多種多様な編成が可能である。	△	多種多様な編成ができず、意図的なグループ分けをすることに課題がある。
体育科のチーム競技や音楽科における合唱・合奏等、集団学習にかかる制約	○	チーム競技が組みやすいなど集団学習にかかる制約が少ない。	△	人数により、できる競技が限られるなど集団学習にかかる制約がある。
多様な考え方・多様な価値観を共有する	○	多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れやすく、多様な発言が引き出しやすい。	△	教科等が得意な子どもの考えに学級全体が影響を受けたり、多様な発言が引き出しにくいなどの課題がある。
授業にかかる制約	△	特別教室や体育館、プールの利用等、授業の割り当てや調整、教育活動の展開に支障が生じる可能性がある。	○	特別教室や体育館、プールの利用等、授業の割り当てや調整がしやすい。

③ 学校行事・部活動に関する影響

項目	妻中		三納中	
部活動の選択	○	19種目の部活動種目があり、生徒が入りたい部活の選択肢が多くある。	△	部活動の種目が4種目に限られており、生徒が本当にしたい競技ができない状態にある。
生徒が活躍する機会	△	学校行事等において、一人一人が活躍する場や機会が少ない場合がある。	○	学校行事等において、一人一人が活躍する場や機会が多い。

2 教職員の比較

学校名	校長	教頭	教諭等										養護教諭	栄養教諭等	事務職員
妻中	1	1	主幹教諭1・教諭25・常勤講師4										養護教諭1・養護助教諭1	栄養教諭1・学校栄養職員1	県事務官2・県臨時1
			国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	体育	技術	家庭	2	2	3
			4	3	6	3	6	1	1	3	2	1			
三納中	1	1	教諭7・常勤講師1										養護教諭1	0	県事務官1
			国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	体育	技術	家庭	1		1
			1	1	1	1	2	1	0	1	0	0			

『教職員への影響』

① 教職員配置に関する影響

項目	妻中		三納中	
経験年数、専門性等バランスのとれた教職員配置	○	経験年数、専門性等バランスのとれた教職員配置が可能となり、それらの利点を生かした指導ができる。	△	教職員配置数が限られており、経験年数、専門性等バランスのとれた教職員配置が難しい。免許外指導もありうる。
教科主任や校務分掌にかかる負担	○	校務分掌及び教科等主任が一人一役である。	△	教科等主任を一人あたり二役以上受け持っており、教職員一人当たりの校務負担が大きい。
様々な課題に対する組織的な対応	○	職員が多いため、対応チームを複数構成することができる。	△	職員が少ないため、対応する職員が固定されてしまう。
	△	生徒一人一人の個性や行動について組織全体で情報共有することが難しく、指導に温度差が生じることがある。	○	生徒一人一人の個性や行動に対する情報共有がしやすく、組織全体としてきめ細かな指導を行うことができる。

② 学習指導・部活動指導等に関する影響

項目	妻中		三納中	
多様な指導方法の実施	○	T・T、グループ別指導、習熟度別指導等の多様な指導方法をとることが可能である。	△	T・T、グループ別指導、習熟度別指導等の多様な指導方法をとることが難しく、多様な指導方法の実施に課題がある。
同一教科によるOJTの実施	○	同一教科で複数の教職員が配置されているため、OJTが可能であり、指導力を磨くことができる。	△	同一教科の複数配置ができず、教科に於いて切磋琢磨する環境を作りにくい。指導技術の相互伝達がなされにくい。
部活動の指導者確保	○	専門とする部活動を受け持つことも可能であり、指導者の確保についてもしやすい。	△	専門外の部活動の指導を受け持つ可能性も高く、指導者の確保も課題となりやすい。